

ふるさとの年中行事

節分

邪気払いと無病息災を願って

節分は、季節を分ける日を行い、江戸時代以降は特に立春の前日を行いました。この節分は宮中の年中行事でしたが、寺社で行なわれる邪気を追い払うための豆打ち儀式が合わり、庶民にまで浸透する年中行事となりました。

豆時は、鬼に豆をふつけることによる邪気払いとその年の無病息災を願う意味で行なわれます。さらに自分の年より一つ多くの豆を食べることにより、体が丈夫になり風邪なども引かないという地域もあります。また、柊の小枝に焼いた鰯の頭を付けた柊鰯を門口に挿すことも行なわれ、ヤッカガシやヤйкаシとも呼ばれます。これは、柊の棘が鬼の目をつぶし、鰯の臭いで鬼が近寄らないという意味です。

市域では、節分をトシトリと



柊、ねぎ、消炭、鰯をつけた注連縄

2月3日



文芸ひろば

俳句

山びこの里に生れて初日の出
集落にひとつの社初詣
笹鳴や苔むしてゐる涙石
寒紅梅太平洋を遙かにす
一抹のさびしさもあり冬桜
暮参への長き石段落ち椿
児が見つけ児の指の先冬の虹
寒餅の温灰たたく炉辺を恋ふ

短歌

立冬の朝の陽浴びてアルミ色の野鳩のにこ毛ふくふく動く
ひたひたと手に落つる水沓え返り今日立冬の葉を洗ふなり
初釜の茶会の庭の水琴窟妙なる音色の澄みしが地を這ふ
命燃やし夜毎鳴きいし虫の声はたと途絶えて秋も深まる
訪ね来し子孫曾孫の去りし部屋炬燵に独りたぐる想ひ出
樹の元に石臼二つ造形の美とも思はぬ時代に生きる
都会の子土が魅力が大根をぬきたるままに積みて帰れり
気象地図見ながら予報聞きながらわが茨城の地形よろしと
腰かがめ毎日毎日栗ひろいデイナーショーのご褒美もらう

的場トシ子(上土田)
宮本和子(中佐谷)
目黒しづ子(稲吉東)
大西周(稲吉東)
小貫弘子(牛渡)
飯島ヒロエ(三ツ木)
鈴木春雄(戸崎)
前島和子(雪入)
小野清子(下稲吉)

かのう栄(宍倉)
斉藤嘉代(稲吉南)
大西周(稲吉東)
中島暉子(下志筑)
車田きみ(大和田)
小松崎正栄(戸崎)
福田宏道(御殿)
松葉ふみ(内加茂)

宍倉小学校

「やる気と元気と
笑顔あふれる学校」
をめざして 心を育てる！

全校あげての 読書習慣
目標は年間 15,000 冊
(1人平均3日に1冊)



■本に親しみ、
豊かな心を！

年度当初、百三十人の全校児童が年間読書冊数を五千冊とする目標を掲げ、朝の読書の時間や休み時間などを活用したり、家庭での読書を奨励したりしてきた結果、さまざまな分野の本を子どもたちが夢中になって読むようになってきました。十二月には、目標を大きく上回り一万冊をこえたため、新たに目標を一万五千冊に修正し、読書活動を進めています。

また、職員やPTAによる読み聞かせ、図書室の環境整備や委員会活動を通して読書の輪を広げています。



図書委員によるおすすめ本を掲示板で紹介

■いきいきタイムで
がんばる心を！

中休みにいきいきタイム(業間運動)の時間を設定し、縄跳びや持久走などを中心に体力づくりとがんばる心の育成に取り組んでいます。持久走は、自分のめあてに向かって走り続け、記録をのばしています。また、縄跳びでは、カードを使い高学年の児童が低学年の面倒を見ながら検定を行なうなど、異年齢集団の交流としても役立っています。



業間運動で頭も体もすっきり

■ボランティア活動
で思いやりの心を！

始業前、高学年による掃き掃除、除草、昇降口の清掃などのボランティア活動を行なっています。高学年の働く姿をみて、低学年の児童も進んで通学路のゴミ拾いをする児童の姿が見られるようになってきています。



毎朝清掃ボランティアが活躍